

海とのかかわり
縄文人と
余山で暮らした
骨角器。

どうなる?
どうする!

余山貝塚 Part 2

～骨角器。余山で暮らした縄文人と海とのかかわり～

令和7年度銚子市指定史跡余山貝塚シンポジウム

令和8年 3月8日(日) 13:00~16:00

開催場所 千葉科学大学防災シミュレーションセンター

銚子市潮見町15-8 (千葉科学大学マリーナキャンパス 危機管理学部棟2階)

定員 80名(事前申し込み制)

申込方法 電話または右記の申し込みフォームから申し込み

募集期間 令和8年1月20日(火)から2月27日(金)まで

銚子市では、「余山貝塚」の国史跡指定を目指し、市全体で盛り上げていくため、「どうなる？どうする！余山貝塚」という共通タイトルを設けて、令和6年度から講演会やシンポジウムなどを開催しています。

令和7年度のシンポジウムは、余山貝塚から出土する遺物の特徴的なものの一つである「骨角器」に注目し、その中でも「漁撈具」をテーマに開催します。骨角器を研究対象とする方々を講師に迎え、骨角器とは何か？から、余山貝塚から出土する漁撈具と関東や東北地方の漁撈具の特徴との比較、さらに漁撈具の花形である「鉛頭」の構造と使い方などをお話しいただきます。余山で暮らした縄文人と海とのかかわりを想像し、当時の人々に想いを馳せられる機会です。ぜひご参加ください。



申し込みフォーム

<https://forms.gle/1pdGy5EFyt2xFkdW6>

どうなる？どうする！余山貝塚 Part 2

■当日のスケジュール

13:00～13:05	開会・あいさつ 銚子市教育委員会教育長
13:05～13:30	発表① 関東地方の骨角製漁撈具からみた余山貝塚の特色 忍澤 成視（東京大学 大気海洋研究所 大気海洋分析化学分野 特任研究員）
13:30～13:55	発表② 日本列島における先史時代の鰯漁（獵） 高橋 健（立教大学 学校・社会教育講座学芸員過程 準教授）
13:55～14:20	発表③ 縄文時代における東北地方の骨角製漁撈具 ～仙台湾から三陸沿岸を中心に～ 松崎 哲也（奥松島縄文村歴史資料館 学芸員）
14:20～14:30	休憩
14:30～14:55	発表④ 東北地方南部の骨角製漁撈具 —いわき地域の漁撈活動と骨角器— 猪狩 みち子（広野町教育委員会学校教育課／ひろの未来館 主任主査）
15:00～16:00	討論 「骨角製漁撈具からみた余山貝塚でのくらし」 進行：忍澤 成視 パネリスト：高橋 健／松崎 哲也／猪狩 みち子
	閉会

講師としてお話をいただく先生方の「骨角器」愛をご紹介します。

忍澤先生

早稲田大学教育学部在学中に、恩師金子浩昌先生から骨角器研究の基礎を学び、その後、大学院にて渡辺 仁先生から、カリフォルニアインディアンの漁撈技術や道具などについて民族誌的な教示を得たことが、骨角器に興味をもつきっかけです。考古資料の緻密な観察と実験によってその実態を解明しようという自身の研究のスタイルは、この頃に培われたと思っています。

高橋先生

素材となる骨や角の形や大きさに制約を受けながらも、素材の性質を生かした道具が作られている点が面白いと感じています。

松崎先生

縄文時代には実際に様々な骨角製漁撈具が使用されていて、多種多様な漁撈具を駆使して魚をとる縄文人の知恵と工夫に魅せられました。

猪狩先生

学生時代に薄磯貝塚の発掘調査に参加したこと、骨角器に興味を持つようになりました。いわき市内の貝塚からは多くの骨角器が出土していますので、これを機会に興味をもっていただけると幸いです。